

## 令和 6 年度食育イベントの取組について

## 1 第 3 次長久手市食育推進計画における事業項目

## (1) 食を通じて健康な体をつくる

## 1-1 ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践

- エ 講演会、情報発信、料理教室など、大学・学生等と連携しつつ、若い世代をターゲットとした新たな食育の場や機会を創出（検討）していきます。

## 《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・若者は珍しいものに注目する。特産物を使用したアレンジレシピを発信してみても。
- ・地元の食材を活用したキッチンカーを大学へ出店する。

- カ 自ら料理をつくって楽しむ高齢者を増やすため、活動団体等と協力して、高齢者向けの料理教室などの活動を普及・支援していきます。料理方法や食材に関する豆知識など、高齢者の知恵やノウハウを次世代に伝承していくための情報発信やイベント開催に取り組みます。高齢者向けの食育の機会を増やしていけるよう、民間の医療機関・介護事業所などにも協力を呼びかけます。

## 《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・孤食の問題についてしっかりと情報発信していく。本人は現在の状況を問題だと思っていない。食とフレイル予防。
- ・医療施設や福祉施設など、高齢者がいるところで情報を伝える。
- ・子ども食堂のような共食の機会を提供。高齢者も含めて運営していく。

## 1-3 食の安全に関する理解促進

- ア 食品の安全性や栄養成分、食物アレルギーなどの正しい情報を広報・リーフレット・ホームページなどを通じて提供していきます。食を提供する民間事業者にも協力を呼びかけ、分かりやすい情報提供を促します。

## (2) 食を通じて豊かな心を育む

## 2-1 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進

- ア 子どもの孤食は、コミュニケーション不足や栄養の偏りなどの原因となったり、高齢者の孤食は、低栄養やうつ病などの原因となったりするといわれています。孤食が引き起こす悪影響について情報提供するとともに、家族や友人、地域の人とともに食事をする共食の大切さを啓発します。「新しい生活様式」に合わせて、在宅時間を活用して食を楽しむための情報提供を行います。

イ 事業者やNPO等と連携・協力するなどして、高齢者同士や地域の子どもたちとの共食の場づくりを支援します。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・子ども食堂のような共食の機会を提供。高齢者も含めて運営していく。

2-2 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進

イ あぐりん村において、生産者と消費者の交流を深めるイベントを開催します。料理教室や料理コンテストなどのイベントを開催し、食に関する知識や調理技術の習得につながる機会を提供していきます。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・生産者の方と直接交流してみたい。
- ・料理教室で、生産者の方や地元高齢者の方の料理方法(レシピ)などを教えてもらう。
- ・地元野菜を使った料理コンテストを開催して、レシピをSNSで発信する。

2-3 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

イ 日本型食生活のメリットについて理解を促すため、啓発、情報発信を行います。市の伝統的な食文化や伝統野菜についてのPRを行うとともに、実際に調理し食する機会や栽培する機会を提供します。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・高齢者が持っている食に関する知識を継承していく。一緒につくって食べるイベント。
- ・伝統食・郷土料理について、レシピ付き材料セットを販売しては。何回もつくろうと思える。
- ・共生ステーションで「つくって食べる会」。得意な人が講師をして…。

(3) 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

3-1 食生活における環境への配慮

イ あぐりん村では、残菜の堆肥化を進め、食品廃棄物の減量に取り組みます。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・規格外の野菜の流通の仕組みをつくる。子ども食堂に持って行くとか。

3-2 農業への理解促進と地元農産物の消費拡大

ア 農業が地域に果たす多面的な役割についてPRしつつ、地域で生産される農産物の利用促進に向けた啓発、情報発信を行っていきます。また、旬の農産物やその料理方法などについても学習できるように情報発信を工夫していきます。消費者に地域の生産者、農産物についての理解をよ

り深めてもらうために、消費者と生産者との交流の機会を提供していきます。こうした交流を進める中から、消費者と生産者の想いに添った商品、サービスの開発・提供を促していきます。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・生産者の方と直接交流してみたい。
- ・生産者ならではの食べ方、レシピ。教えてもらえると良い。

イ 地元で生産された農産物を地元で消費する地産地消の取組の意義・メリットについて情報発信していきます。また、旬の農産物やその料理方法などについても学習できるように情報発信を工夫していきます。生産者団体等と協力しつつ、市内産農産物の安定供給に向けた体制づくりを支援します。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・出かけられない人へのフォローとして、出張販売する。クラウドファンディングで資金を調達。

ウ あぐりん村等の農産物直売所の機能の充実を図ります。長久手ふれあい農園たがやっせや長久手農楽校など、趣味的に農と関わりたい人から本格的に農業に取り組んでみたいと考える方まで、関心のレベルに応じた農との関わりの場を提供します。農家や地域が実施する農業体験イベントなどの開催を支援します。

《市民ワークショップ意見(計画策定時)》

- ・レシピ付き材料セットの販売。共働き世代の味方になる。子どもへの食育にもつながる。また、直売所に出かける動機になる。
- ・地元の野菜のコインロッカー販売を考えてみる。大学に設置すれば、学生の食の改善につながる。企業・事業所にもあるといい。
- ・あぐりん村まで車で行けない人向けに、出張販売を考えてみる。材料セットを移動販売で売る。
- ・農業体験の場・機会はたくさんあるが、知らないことが多い。
- ・地域で農作業体験のイベントを企画する。
- ・農家さんと情報共有して、農業収穫体験するイベントを行う。

#### (4) 食育を支える取組を推進する

##### 4-2 食育にかかる人材の育成と活動の充実

ア 食育に関わる保育園、学校、家庭、行政、企業・事業者、大学、その他関係機関・団体等の多様な主体の連携を図るため、長久手食育推進支援会議を開催し、情報交換や意見調整を行います。

#### 4-3 食育推進のための啓発、情報提供

ア 食育月間と定める6月に広報・リーフレット・ホームページ・ケーブルテレビ等を通じた広報活動や啓発活動を行います。あわせて、講演会や収穫祭等のイベントを開催し、啓発活動の充実を図ります。

イ 本計画の進捗状況を把握するための一環として、食育に関するアンケート調査を定期的実施します。食育ガイド・食育バランスガイド、日本型食生活のススメなど、食育の啓発に関わる基本的な情報や、食育に関する事業や施策、イベントの情報など、市民が必要な情報を容易に入手することができるよう、広報・ホームページ・リーフレット・ケーブルテレビ等により積極的に情報提供を進めます。

## 2 令和6年度食育イベント（案）

イベント 長久手を食べよう！

日 時

会 場

目 的

対 象 者

主 催 長久手市

協 力

広 報 広報誌等

内 容

## 第3次長久手市食育推進計画 数値目標

### 1 食を通じて健康な体をつくる

| 項目                     | 指標                                | 現状値 (2020)                              | 目標値 (2026)               |
|------------------------|-----------------------------------|---|--------------------------|
| 食育についての関心              | ・食育に関心のある市民の割合                    | (全体) 92.8%                              | (全体) 95%以上               |
| 朝食を毎日食べる習慣             | ・毎日朝食を食べる児童の割合                    | (児童) 91.0%                              | (児童) 98%以上               |
|                        | ・毎日朝食を食べる生徒の割合                    | (生徒) 82.1%                              | (生徒) 98%以上               |
|                        | ・毎日朝食を食べる市民の割合<br>(15歳～39歳)       | (15歳～39歳)<br>80.6%                      | 91%以上                    |
|                        | ・毎日朝食を食べる市民の割合<br>(40歳～59歳)       | (40歳～59歳)<br>88.5%                      | 91%以上                    |
| 自分の適正体重の認識と体重コントロールの実践 | ・自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している市民の割合 | (市民) 39.0%<br>(保護者) 35.1%<br>(全体) 36.4% | (全体) 40%以上               |
| 朝食で野菜・海藻を食べる習慣         | ・朝食で野菜・海藻を食べている小中学生の割合(児童・生徒)     | (児童) 58.3%<br>(生徒) 56.0%                | (児童) 80%以上<br>(生徒) 80%以上 |

### 2 食を通じて豊かな心を育む

| 項目              | 指標                                      | 現状値 (2020)                              | 目標値 (2026)               |
|-----------------|---|---|--------------------------|
| 家族や友人等と一緒に食事をとる | ・1日最低1食、家族や友人と一緒に食事をとる市民の割合             | (市民) 73.1%<br>(保護者) 97.2%<br>(全体) 89.3% | (全体) 90%以上               |
| 農作業の体験          | ・農作業体験をしたことがある小中学生の割合(児童・生徒)            | (児童) 88.4%<br>(生徒) 83.5%                | (児童) 90%以上<br>(生徒) 90%以上 |
| 伝統的な野菜や郷土料理の認知度 | ・長久手市の伝統的な野菜(真菜)や郷土料理(おこしもの)を知っている市民の割合 | (市民) 40.3%<br>(保護者) 62.9%<br>(全体) 55.5% | (全体) 60%以上               |

### 3 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

| 項目             | 指標                              | 現状値 (2020)                              | 目標値 (2026) |
|----------------|---------------------------------|---|------------|
| 地元農産物の購入(地産地消) | ・愛知県内で生産された農作物を購入するようにしている市民の割合 | (市民) 28.1%<br>(保護者) 34.0%<br>(全体) 32.1% | (全体) 35%以上 |
| 環境に優しい暮らし      | ・無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている市民の割合  | (市民) 17.3%<br>(保護者) 18.8%<br>(全体) 18.3% | (全体) 50%以上 |

### 4 食育を支える取組を推進する

| 項目              | 指標                | 現状値 (2020) | 目標値 (2026) |
|-----------------|-------------------|------------|------------|
| 食育の推進に関わるボランティア | ・食育の推進に関わるボランティア数 | 201人       | 350人       |